

都 有 施 設 だ よ り 第16号

都有施設の計画的な維持管理・更新、都の施策を反映した都有施設の機能・性能のレベルアップなどの取組についてお知らせします。

今回は**海の森公園の整備**をご紹介します！

海の森公園の整備

Point!

眺望や構造を
活かした
配置設定

資源循環や
活用に向けた
整備



海の森公園



海の森公園の整備概要

- **令和7年3月28日に「海の森公園」がグランドオープンしました。**
- 東京湾に浮かぶごみと建設発生土で埋め立てられた中央防波堤内側埋立地（右写真緑枠参照）が海上公園として整備されました。
- ごみの山に苗木を植え、美しい森に生まれ変わらせる計画である、**海の森プロジェクト**として、平成19年度より、「**資源循環**」と「**都民協働**」をコンセプトに森づくりを進めてきました。
- 都内の公園や街路樹から出る枝葉を利用した土づくりを行うとともに、苗木づくりから植樹、森の育成までを都民や企業との協働で行いました。
- 平成27年度の植樹完了後も、苗木はボランティアなどの手により大切に育てられ、現在は美しい森を形成しています。



< 海の森予定地（緑枠） >



< 植樹が行われた場所（緑色部分） >

海の森プロジェクト

□ **海の森プロジェクト**は、東京港に浮かぶごみと、建設発生土で埋め立てられた「ごみの山」に苗木を植え、美しい森に生まれ変わらせるプロジェクトのことです。次の2つのコンセプトに基づいて、整備を進めています。

1. **資源循環型の森づくり**：都内の公園や街路樹の剪定枝葉から堆肥をつくり、建設発生土に混合して土づくりを行うなど、リサイクルの視点を大切にした資源循環型の森づくりに取り組んでいます。
2. **市民参加による協働の森づくり**：森づくりに必要となる苗木は、小学生やボランティアがどんぐりから育てました。**2万3千人にも及ぶ都民や多くの企業、NPOとの協働により約24万本を植樹しました。**



＜ 植樹・苗づくりの様子 ＞

眺望や構造を生かした配置設定

□ 海に囲まれた海上公園のため、**眺望の良さを生かした配置設定**や、**強風や潮風から塩害等に強い木々を周囲に植栽し、中央の草原を守る配置設定**になっています。（下図）。



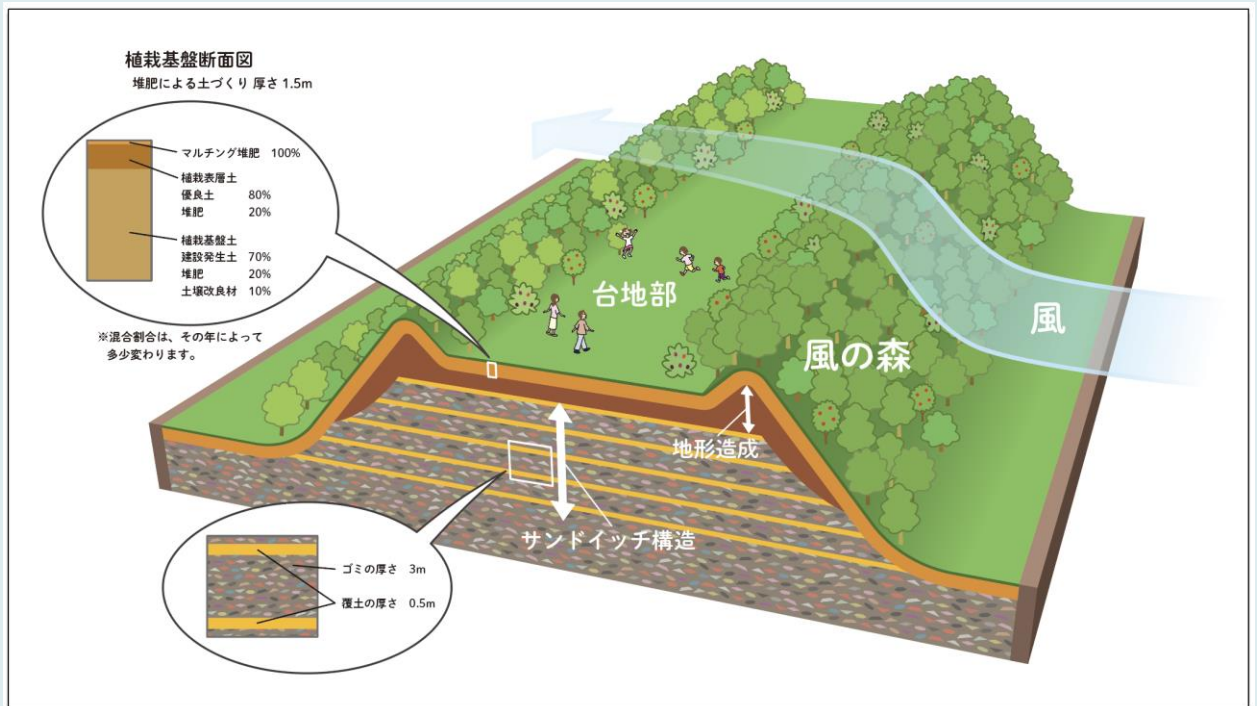
資源循環や活用に向けた整備

〈資源循環に配慮した地盤整備〉

- 海^①の森の土地は、もともと昭和48年から昭和62年にかけて、総重量1,230万トンのごみと、建築工事などで発生する建設発生土を、サンドイッチのように交互に埋め立てて造られた、高さ30メートルにもなる埋立地です。ごみによって作られた土地を森にするために、厚さ1.5メートルの土や肥料などを表面にかぶせて、約24万本もの樹木を植えました。地形造成には、主として、建設発生土を用いています。また、樹木を育てるために使われた肥料は、都内の街路樹を剪定したときの枝葉を活用しました。これにより、資源循環による森づくりを実現しました。

〈イベント開催等の活用に向けた整備〉

- 海^①の森公園の中央部には、イベント会場やいこいの場となる「つどいの草原」や、林間レクリエーションが楽しめる「ふれあいの森」があります。基盤整備では、海からの強風や塩分を含む風からこれらの広場を守るために、土塁を設け、強風や塩害に強い常緑樹を植えた「風の森」の整備を優先的に進めました。「風の森」が防風・防潮林としての役割を果たすことで、広場の植物や環境が守られ、イベントの開催や市民の参加を容易なものにしています。



＜ 海の森公園の断面図 ＞



タブノキ



ユズリハ



クロマツ



スダジイ

＜ 強風や塩害に強い常緑樹 ＞